

「ICT教育推進委員会による学習環境整備の推進」

松伏町教育委員会



1. 本町の現状

授業実践においては、若手教員からベテラン教員まで幅広いキャリアの教員が、松伏授業プラン（学習スタンダード）に基づいたうえで、積極的にICT機器を活用し、児童生徒が「わかる」授業の実現に努めている。しかし、個々の取組であるため、良い実践が共有できていない現状がある。

また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業期間中には、学習課題の配付やYouTube等の動画配信に取り組み等、情報の発信は積極的に行うことができていたが、双方向でのシステムが無く、児童生徒とのコミュニケーションや課題進捗状況の確認という点において、課題が残る形となった。



なるほど!!

【ICTを活用した授業実践の様子】

こうした現状での課題を踏まえ、その対応策について協議する組織として、今年度、「松伏町ICT教育推進委員会」を設置した。

学習過程	学習活動（児童・生徒）	教師のポイント（教師）
導入 つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲に切り込む 学習の目的や意図を伝える 本時の学習の課題（めあて）をノート等に記入する 自分の学習の進捗を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに迫る適切な課題を示し、板書する 17分以内で、児童生徒の学習意欲がわき、やってみたいと思わせる課題を提示する
展開 考える	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもつ（自力解決） 自分の考えをノートに整理する 自分の考えを伝えたり、友達との考えを聞いたりして、自分の考えを深める（協働の学び） 自分の考えを深めたい課題の考えを聞く 自分の考えを深めたい課題の考えを聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で考える場を設定する 自分だけでなく考える時間を確保する 一人一人が考えを深めようとするように適切な課題を提示する（ヒントカードの配布、声かけ等） 考えを深める場を設定する 協働の目的に応じて適切な学習形態（ペア・グループ・4人組）を指導する 協働の学びの場に、「問のために協働の学びを促すめあて」を設けるように学習のめあてを設定して指導する 話し方・聞き方を育て、適切な発言を行わせる 課題を深める問い返しや学習めあてを行う
まとめ 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の課題（めあて）に沿ったまとめをノート等に記入する 学習意欲の向上を図る 振り返りシート（紙質・高紙）を活用する 振り返りシート（紙質・高紙）を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに沿ったまとめを、板書する 振り返りシートを活用して、振り返りの時間を確保する 振り返りの時間を確保する 振り返りの時間を確保する

「1単位時間（1つかむ～5振り返る）まで完結する授業」
児童生徒が分かる喜びを実感できる授業へ

【松伏授業プラン】

2. ICT教育推進委員会について

(1) 組織について

委員長：校長会代表

副委員長：教頭会代表

委員：5名（町内各小・中学校 主幹教諭または教務主任）

事務局：教育長、担当指導主事、学校施設担当

学校数：小学校3校、中学校2校



(2) 所掌事務について

① ICTを活用した教育の研究

② 学校の情報環境整備

③ 1人1台の情報端末を活用した授業の充実

④ 学校の臨時休業時等において、子供たちの学びを止めないためのICTを活用した学習支援

↓ 中でも…

「双方向オンラインシステムの構築」と「1人1台のタブレット端末を活用した授業改善」を推進委員会において先ず取り組むべきこととして設定した。

○「双方向オンラインシステムの構築」(Google Classroom の活用) について

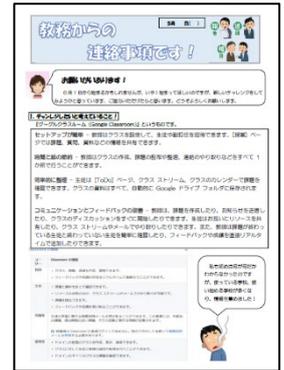
ICT教育推進委員会において、各校における学習環境を整備するにあたり、「再度の臨時休業に備えた、双方向オンラインシステムの構築」が急務であることから、「Google Classroom」を各校で導入していくこととした。



松伏町ICT教育推進委員会では、実際に幾つかのアプリをダウンロードし、体験しながら協議を進めている。また、Google Classroomの導入にあたっては、推進委員会のメンバーで実際にクラスを作成し、活用しながら利便性を確認するとともに、情報共有を図った。

※松伏町のアカウントでクラスを作成した

《推進委員会での活用例》
Google Classroomを各校で導入するにあたり、先進的に取り組んでいる学校で使用した先生方への周知文書を共有した。共有フォルダとは異なり、クラスのメンバーのみデータ共有が可能である。また、コメントを添えることができるのも、本システムの特徴であり、利点である。



現在、各校において、日報や週報での活用が進められている。職員へのアンケートをGoogle Classroomを活用して実施することで、集計の手間を省き負担軽減につながる取組も見られる。各校における効果的な活用事例を推進委員会で共有していくことで、環境整備の更なる推進を図る。また、今年度中には1人1台のタブレット端末が整備される。推進委員会では、各校からの声を吸い上げながら、運用規定等についても整備を進める。

○「1人1台のタブレット端末を活用した授業改善」について

タブレット端末の導入が3月下旬であることから、現時点では「タブレット端末を活用した授業実践」をもとにした協議を実施することはできない。契約業者による導入ソフトの説明や資料配付にとどまっているのが現状である。しかしながら、「タブレット端末を活用した授業」に向け、「**教職員の意識改革**」を進めていかなければならない。「松伏授業プラン」に基づく学習の流れのどの場面でタブレット端末を効果的に活用できるか、先進的に取り組んでいる他市町の事例等を参考にしながら、本町の実態に応じた活用方法について研究を進める。

3. 今後の取組について

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休業を余儀なくされるとともに、学校再開後も多くの学校行事が中止または例年と異なる形式で実施されることになった。こうした中、各校においてICTを活用した様々な工夫が見られた。これまでの形に捕らわれることなく教職員のアイデアを生かした取組が推進された。

「学力向上を目指したICTの効果的な活用」についても同様であると考え。ハード面における整備も重要であるが、それ以上に、どう活用するかが重要である。今後、ICTを活用した授業研究会の実施及び優れた実践の普及など、教職員のアイデアを大切に授業改善を推進する。



【体育祭のライブ配信】